

## 令和5年度大子町読書講演会報告書

附属小学校学校司書 栗原浩美

附属中学校学校司書 岩崎春子

附属駒場中・高等学校研究員（司書） 加藤志保

### 1. 概要

大子町では、毎年、町内の小中学校の児童生徒が一堂に会し、情報交換や研修などを通じて読書の意識を高揚させることを目的として、読書集会を開催し、読書感想文コンクール入賞者の表彰などのほか、読書講演会などの活動が行われている。

本年11月29日に行われた上記読書集会における読書講演会では、附属小学校および附属中学校の学校司書ならびに附属駒場中・高等学校の研究員の計3名が講師を務め、「本と遊ぼう！」と題して、新たな本との出会いの場を作り、読書意欲を高めるとともに、学校図書館の利活用を促すことを目的にワークショップを実施した。

なお、参加者は、町内の6つの小学校から5年生78名、4つの中学校から1年生83名の計161名であった。

### 2. 活動内容

#### ① 学校図書館で本を探す。（事前活動）

事前に依頼して、各学校図書館の蔵書から、書名が素敵と感じたり、心惹かれたりする本を一冊選ばせ、当日持参してもらった。書名に注目しながら学校図書館の書架を回ることで、蔵書に関心を持ち、図書館には多様な本があることに気付かせることを目的とし、本のジャンルは問わず、読んでいなくても構わないこととした。選んできた本は、物語が多かった。

#### ② グループで、持参した本を紹介しながら自己紹介をする。

1グループ8～9名、20グループで行った。グループは小・中学校の児童生徒が混ざり合うように構成し、本を通して他校の児童生徒と交流の機会を作れるようにした。初対面なため緊張気味であったが、本を見せ合いながら話すことで、次第に打ち解け合うことができた。



小中学生混合グループでワークショップ

#### ③ 書名を詩の一行とし、組み合わせて8行詩を創作する。

詩の創作と聞き、難しそうという印象を持ったようであったが、活動を始めると、バラバラの書名を組み合わせることで、新しい意味やストーリーが生まれることに気付き、話し合いが徐々に活発になっていった。言葉のつながりや起承転結、言葉のリズムなどを考えながら、本を並べ替え、詩を創作していた。

#### ④ 作った詩、工夫した点や感想を発表する。

演技を交えて詩の読み方に工夫をこらして発表したり、言葉の組み合わせから生まれる意外性を楽しんだり、個々の書名自体に興味を持ったりしながら聞いていた。なお、このワークショップは、東京学芸大学附属世田谷中学校の渡邊裕先生ならびに筑波大学附属駒場中・高等学校の森大徳先生の実践事例を参考にした。



完成した詩の発表

### 3. 活動を通して

本ワークショップを通して、普段、読んだり調べたりするのは異なる本の楽しみ方を体験する機会を作ることができたと考える。

活動の最後に、今日の活動を通じて読みたくなった本があったかを尋ねたところ、多くの児童生徒が発表してくれた。また、グループ内で本を交換して中身を読む姿や質問し合う姿も見られた。

一人で本を読む活動だけでなく、子ども同士で本について話したり紹介したりする活動は、互いへの刺激となり、読書への興味を高めるのに非常に効果的である。今回の活動を機会として、日常的に本について語り合う場が設けられ、それがさらなる読書意欲や学校図書館の利活用へつながることを期待したい。

また、今回に限らず、児童生徒に対し、本との出会い方をはじめとした、さまざまな読書活動を体験させることは、本に親しみを持たせ、読書への関心を高めることにつながり、それがひいては豊かな読書生活へとつながっていくことになる。今後、連携・協力事業の一環として、附属学校の児童生徒との読書交流の機会を設けるといった活動も考えられるだろう。

最後になるが、大子町の先生方には、事前のグループ分けや当日の活動の支援など、ワークショップの円滑な実施のため多大なご協力をいただいた。この場をお借りして感謝申し上げます。

(文責：栗原浩美)